

## 抜粋 ～東松山市立小・中学校適正規模に関する基本的な方針～

### 3 学校の小規模化・大規模化に伴う課題

#### (1) 小規模校のメリット・デメリット

メリット	
学習生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒一人一人に目が届きやすく、丁寧な学習指導ができる。きめ細かい教育を行うことができる。</li> <li>・学校行事や部活動において、児童生徒一人一人に活動の場があり、かつ活動の時間が十分に確保できる。</li> <li>・校外学習や外での活動時に、児童生徒の安全面での管理が行き届く。団体行動が行いやすい。</li> <li>・異学年間の縦の交流が生まれやすく、学年を超えた人間関係ができる。</li> <li>・体育館、プール、特別教室等を利用する授業の割り当てや集団活動の調整がしやすい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室空間に余裕が生まれ、災害発生時や緊急避難時に混雑が生じにくくなる。</li> <li>・部活動において、運動場や体育館、特別教室等が余裕をもって使うことができ、活動しやすい。(中学校)</li> <li>・全教職員の意思疎通が図りやすく、相互の十分な連携が可能になりやすい。</li> <li>・保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li> </ul>
デメリット	
学習生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会が少なくなる。</li> <li>・運動会や音楽会等の行事での集団活動、球技や合唱・合奏の授業等の集団学習において、実施する上での人数が少ないがゆえに制約が生じる。</li> <li>・グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員（音楽・理科等）による指導等、多様な学習・指導形態をとりにくいことによって、授業を展開する上での制約が生じる。</li> <li>・クラス替えが困難なことから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li> <li>・クラス間の競い合いによって高めあう機会が少なくなり、運動会や音楽会等の行事の実施において制約が生じる。</li> <li>・配置する教員数が限られ、各教科の免許をもつ教員を配置しにくい。(中学校)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団内の男女比に偏りが生じやすい。</li> <li>・部活動の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。(中学校)</li> <li>・一人の教員が、複数学年の授業の準備を行う、また多数の校務分掌が集中しやすい等、教員の負担が大きくなる。(中学校)</li> <li>・教員の出張、研修等の調整が難しいことがある。</li> <li>・PTA活動等における保護者一人あたりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>